

科目名		化学基礎				学期	後期				
最低面接時数		8時間		レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位		
履修できる条件		特になし				開講する場所					
						本校(日曜)		高千穂			
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 指示無視・大問無解答・他人の筆跡・他人の書写や被書写は、「再提出」。 2. 60~79点でも、学習状況・取り組み・理解度により「再提出」。 3. 60点未満は「不合格+再提出」。 4. 30点未満は「警告+再提出」。 5. 提出期限遅れは、「80点以上+警告+評価2」。(2回目以降は「失格」となり、単位を認めない。) 6. 再提出は、80点以上必要。7. 有効期限遅れは、「失格」。(単位を認めない。)							
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。							
	面接指導		各回	1: 出席時数の多寡で評価は行わない。 2: 指導中の意欲等を評価に含めない。							
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。							
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。							
			試問実技	1: 特に実施しない。							

1. 目標

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

理科の科目の中では計算問題は多い科目です。学習内容は、化学の歴史、化学技術の発展やその利用、物質の成り立ちや化学反応式、酸・塩基についての化学や電池のしくみ（酸化・還元）を扱います。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	化基 702	新編 化学基礎	2 東京書籍
教科書			
学習書	なし		
その他	なし		

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	物質の探究	・物質の性質と分離 ・物質の成分	
2	10/15	物質の構成粒子	・原子の構造 ・電子配置と周期表	
3	10/29	物質と化学結合	・イオンとイオン結合 ・金属と金属結合 ・分子と共有結合	
4	11/12	物質と化学変化	・原子量・分子量と物質質量 ・化学変化の量的関係	
5	11/26	酸と塩基	・酸と塩基 ・水素イオン濃度とpH ・中和反応と塩の生成 ・中和反応の量的関係と中和滴定	
6	12/10	酸化と還元	・酸化と還元 ・酸化還元反応の利用	

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		生物基礎				学期	後期				
最低面接時数		8時間	レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位			
履修できる条件		特になし				開講する場所					
						本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)	
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。							
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。							
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。							
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。							
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。							
			試問実技	1. 特に実施しない							

1. 目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

理科の科目の中では比較的計算問題は少ないが、図(写真)やグラフを読み取り、自分の言葉で表現する力を伸ばすことができる科目である。細胞単位の小さなところから、からだの中で起きていること、身の回りの自然や環境についての大きなところまで取り扱い、日常生活や社会とのかかわりを考えながら学習を進めていく。大学入試共通テスト受験希望者や看護・医療系の専門学校等への進学希望者については受講を強く勧める。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	生基704	高校生物基礎	7 実教出版
教科書			
学習書	なし		
その他	なし	サイエンスビュー 生物総合資料 四訂版	実教出版

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	生物の特徴	・細胞の観察 ・生物の共通性と多様性	・代謝とエネルギー ・酵素・光合成・呼吸
2	10/15	遺伝子とその働き	・遺伝子とDNA ・DNA研究の歴史	・遺伝情報の複製と分配 ・遺伝情報とタンパク質の合成
3	10/29	ヒトのからだの調節①	・体内環境 ・肝臓・腎臓	・情報の伝達 ・血糖濃度の調節
4	11/12	ヒトのからだの調節②	・生体防御と免疫 ・自然免疫	・獲得免疫 ・免疫と疾患
5	11/26	生物の多様性と生態系①	・生態系 ・植生とその変化	・植生とバイオーム ・世界各地のバイオーム
6	12/10	生物の多様性と生態系②	・生物どうしのつながり ・生態系のバランス	・人間生活による環境への影響 ・生態系の保全の重要性

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、生物現象について自身の取り組みや意見を表現することが出来る。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		地学基礎				学期	後期				
最低面接時数		8時間		レポート数	6回	テスト	有	単位数	2単位		
履修できる条件		特になし				開講する場所					
						富島	高鍋	本校(月曜)			
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価をCとした上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。							
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の5割とする。							
	面接指導		各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。 2. 出席者の把握が難しく平等な評価ができないため、面接指導中の意欲や態度については、評価の中に含まない。							
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。							
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。							
			試問実技	実施しない。							

1. 目標

地学的な事物・事象についての観察、実験や課題研究などを行い、自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

理科の科目の中では比較的計算問題も少ない。ただし、グラフや図などを読みとって考える場面も多く、単なる暗記科目とっていると意外に難しいかも知れない。宇宙や太陽系の構造、地球の内部構造など最先端な話題も多く、科学的な教養を身につけるには適した科目である。地震や火山活動を統一的に説明する理論であるプレートテクトニクスなどは特に興味深いところで、根拠に基づいて想像をするという科学の醍醐味を味わうことができる。セ

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	地基705	高等学校 地学基礎	183第一
教科書	なし		
学習書	使用しない		
その他	なし		

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	宇宙と太陽の誕生	・宇宙の構成 ・太陽	・太陽系の中の地球
2	10/15	地球の概観 火山活動	・地球の姿 ・地球内部の層構造	・プレートの運動 ・火山活動
3	10/29	地震 地層	・地震	・地層や岩石と地質構造
4	11/12	化石 地球と生物の変遷	・化石 ・先カンブリア時代	・古生代と中生代と新生代
5	11/26	大気と海水の運動	・地球の熱収支 ・大気構成	・大気の大循環 ・海洋の大循環
6	12/10	日本の自然環境	・地球の温暖化	・オゾン層の破壊

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究する力を養う。	レポート・スクリーニング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	体育B			学期	後期		
最低面接時数	5時間	レポート数	1回	テスト	有	単位数	1単位
履修できる条件	体育A～Fは領域の違いであり、履修の順序、必修設定などはないが、原則として1年次にAとB、2年次にCとD、3年次にはEまたはF、もしくはE、Fの順で履修ができる。体育全体の修得単位数は7単位以上8単位以下とする。旧体育①～③の修得と、体育A～Fの登録とは無関係とする。			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	4割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。			
	面接指導	1割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技	1. 面接指導期間中に必ず実技試験を受験させ、全体評価の4割とする。			

1. 目標

運動の合理的な実践を通して、知識を深め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

- ・健康、安全や運動について、理解を深める。
- ・日常生活の中で、実践できる運動の体験。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50大修館
教科書			
学習書	なし		
その他		アクティブスポーツ	

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/15	体育理論・球技・武道	運動・スポーツの文化的特徴・バスケットボール・相撲	
2				
3				
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践にかんする具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	体育D			学期	後期		
最低面接時数	10時間	レポート数	2回	テスト	有	単位数	2単位
履修できる条件	体育A～Fは領域の違いであり、履修の順序、必修設定などはないが、原則として1年次にAとB、2年次にCとD、3年次にはEまたはF、もしくはE、Fの順で履修ができる。体育全体の修得単位数は7単位以上8単位以下とする。旧体育①～③の修得と、体育A～Fの登録とは無関係とする。			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	4割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。			
	面接指導	1割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技	1. 面接指導期間中に必ず実技試験を受験させ、全体評価の4割とする。			

1. 目標

運動の合理的な実践を通して、知識を深め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

- ・健康、安全や運動について、理解を深める。
- ・日常生活の中で、実践できる運動の体験。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50大修館
教科書			
学習書	なし		
その他		アクティブスポーツ	

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/8	体育理論・球技	運動・スポーツの文化的特徴・フットサル・サッカー	
2	11/5	体育理論・武道	運動・スポーツの文化的特徴・剣道・柔道	
3				
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践にかんする具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	体育F			学期	後期		
最低面接時数	5 時間	レポート数	1 回	テスト	有	単位数	1 単位
履修できる条件	体育A～Fは領域の違いであり、履修の順序、必修設定などはないが、原則として1年次にAとB、2年次にCとD、3年次にはEまたはF、もしくはE、Fの順で履修ができる。体育全体の修得単位数は7単位以上8単位以下とする。旧体育①～③の修得と、体育A～Fの登録とは無関係とする。			開講する場所			
				本校（日曜）	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	4割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。			
	面接指導	1割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技	1. 面接指導期間中に必ず実技試験を受験させ、全体評価の4割とする。			

1. 目標

運動の合理的な実践を通して、知識を深め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

- ・健康、安全や運動について、理解を深める。
- ・日常生活の中で、実践できる運動の体験。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50大修館
教科書			
学習書	なし		
その他		アクティブスポーツ	

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/15	体育理論・球技	運動・スポーツの学び方・テニス・ソフトテニス	
2				
3				
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践にかんする具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名		体育H			学期	後期			
最低面接時数		10 時間	レポート数	2 回	テスト	有	単位数	2 単位	
履修できる条件		体育A～Fは領域の違いであり、履修の順序、必修設定などはないが、原則として1年次にAとB、2年次にCとD、3年次にはEまたはF、もしくはE、Fの順で履修ができる。体育全体の修得単位数は7単位以上8単位以下とする。旧体育①～③の修得と、体育A～Fの登録とは無関係とする。			開講する場所				
					本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋	本校(月曜)
評価計画	添削指導	4割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。					
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。					
	面接指導	1割	各回	1. 出席時数の多寡で評価は行わない。					
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。					
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。					
			試問実技	1. 面接指導期間中に必ず実技試験を受験させ、全体評価の4割とする。					

1. 目標

運動の合理的な実践を通して、知識を深め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

- ・健康、安全や運動について、理解を深める。
- ・日常生活の中で、実践できる運動の体験。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50大修館
教科書			
学習書	なし		
その他		アクティブスポーツ	

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/4	体育理論・球技・野外活動	身の周りの人のスポーツライフ・ラグビー・野外活動	
2	10/29	体育理論・陸上・ゴルフ	スポーツに関わる職業・陸上・ゴルフ	
3				
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	運動の合理的、計画的な実践にかんする具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。また、個人及び社会生活における健康・安全について総合的に理解しているとともに、技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取組方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人及び社会生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して総合的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		

科目名	保健			学期	後期		
最低面接時数	2時間	レポート数	3回	テスト	有	単位数	1単位
履修できる条件	・14単位以上取得していること。			開講する場所			
				本校(日曜)	高千穂	富島	高鍋
評価計画	添削指導	5割	各回	1. 意欲の感じられないレポート、空欄のあるレポート、誤答が多く採点で30点に満たないレポートは、再提出させ評価をCとする。 2. 提出期限に遅れた場合は、1回だけは評価を2段階下げた上で有効とするが、2回目以降は単位を認めない。 3. 有効期限に遅れたレポートは無効とし、単位修得を認めない。			
			全体	1. レポートが全て合格したことで、日常の学習活動が十分行われたと判断し、レポートの評価を全体評価の4割とする。			
	面接指導		各回	出席時数2時間のため、評価は行わない。			
			全体	1. 最低面接時数を満たしていない場合は単位修得を認めない。			
	テスト	5割	定期	1. 30点未満の者については、知識の定着が不十分であると判断し、再テスト扱いとする。 2. 再テスト対象となった場合は、再テストの規定に従って評価する。			
			試問実技	特に実施しない。			

1. 目標

個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2. 教科の概要（選択の際のアドバイス）

普段の生活の中で関わりのある生活習慣病や喫煙・飲酒・薬物乱用と健康問題について学ぶ。さらに、心と体の関係・ストレス・エイズについて学習する。

3. 使用教科書等

教材	記号・番号	書名	発行者番号・発行者名
教科書	保体701	現代高等保健体育	50 大修館
教科書			
学習書	なし		
その他			

4. 添削指導計画 ※レポート表紙の提出期限と取り扱い内容を確認して記入して下さい。

回	提出期限	取り扱い単元	指導内容	備考
1	10/8	生涯を通じる健康	思春期と健康・性意識と行動選択・結婚生活と健康	
2	11/5	生涯を通じる健康	妊娠・出産と健康・家族計画と人工妊娠中絶	
3	12/3	生涯を通じる健康・健康を支える健康づくり	加齢と健康・高齢者のための社会的取り組み・医療制度とその活用・医薬品と健康・働くことと健康・労働災害と健康	
4				
5				
6				

5. 観点別学習状況評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目標や状況に応じて他者に伝えている。	レポート・スクーリング・テストの取り組み状況から学習内容の理解度を把握する。
生徒の学習状況の評価方法	レポート・テストの点数を中心に「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点で総合的に評価します。		